

25:14 ナバルの妻アビガイルに、若者の一人が告げて言った。「ダビデがご主人様に祝福のあいさつをするために、荒野から使者たちを遣わしたのに、ご主人様は彼らをののしりました。

25:15 あの人たちは私たちにとても良くしてくれたのです。私たちは恥をかかされたこともなく、野で一緒にいて行動をとともにしていた間、何も失いませんでした。

25:16 一緒に羊を飼っている間は、夜も昼も、彼らは私たちのために防壁となってくれました。

25:17 今、あなたがどうすればよいか、よく考えてください。わざわざがご主人とその一家に及ぶことは、もう、はっきりしています。ご主人はよこしまな方ですから、だれも話しかけることができません。」

25:18 アビガイルは急いでパン二百個、ぶどう酒の皮袋二つ、料理した羊五匹、炒り麦五セア、干しぶどう百房、干しいちじく二百個を取って、これをろばに載せ、

25:19 自分の若者たちに言った。「私の先を進みなさい。あなたがたについて行くから。」ただ、彼女は夫ナバルには何も告げなかった。

25:20 アビガイルがろばに乗って山陰を下って行くと、ちょうど、ダビデとその部下が彼女の方に下って来るのに出会った。

25:21 ダビデは、こう言ったばかりであった。「荒野で、あの男のものをすべて守ってやったので、その財産は何一つ失われなかったが、それは全く無駄だった。あの男は善に代えて悪を返した。

25:22 もし私が明日の朝までに、あの男に属する者のうち小童一人でも残しておくなら、神がこのダビデを幾重にも罰せられるように。」

ダビデたちがナバルの労働者たちを守ったことは、隠されることなく明らかにされました。若者がナバルの妻アビガイルに告げたのです。彼の証言からナバルの人間性の悪さが改めてはっきりします。

アビガイルは聡明な婦人で、義を行い、また主の計画を悟ることができました。ダビデがただの野武士ではなく王の器であることを理解したのです。さらには「夫ナバルには何も告げなかった。」とありますから、夫の性格も知った上で、彼と家とを守ろうとしたのです。自分はとりなし手となりました。

このアビガイルのように、周りに流されずに、主のご計画を悟って、主の側につく者となましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

